

説教要旨「あなたがたは幸いである」

ルカによる福音書6章20～26節

私たちは、お金に余裕があって、おいしいものを食べることができ、毎日笑顔で、愉快地暮らすことができる、そういう生活を幸福な人生として求めているのではないのでしょうか。もっと言えば、すべての人々に認められ、受け入れられ、ほめてもらえる、そんな人生を求めているのではないのでしょうか。けれども私たちにとって幸せに見える人生は、イエス様の目から見た時、実は不幸な人生であり、私たちの目には不幸と見える人生が、イエス様から見ればそれこそが幸いな人生だと言うのです。イエス様に従うためには、どうもこの正反対の価値観を受け入れなければならないようです。

私たちがもしお金が有り余るほどもっていたならば、そこでもう慰めを受け、自分に足りないものがあることに気付けなくなります。満腹していると、もうそれ以上のものを欲しようとしなくなります。笑っているとき、自分が神の救いを必要としている、悲惨な状態にあることを忘れることができます。あまりいつも人にほめられていると、思いあがって、自分は重んじられて当然の人間なのではないかと、だんだん思えてくるのです。その時、私たちの人生の中に、魂の中に、神様をお迎えする場所がどんどん小さくなっていきます。

それに対して、貧しい人々、飢えている人々、泣いている人々は、自分が足りない者であること、欠けを持っている者であることを深く知っています。持っている大金やどれを食べればよいか悩むくらいの食べ物、気持ちを逸らせてくれるたくさんの娯楽、独りよがりへと導く人々のほめ言葉、そういったものからは自由です。

この世で自分を高く上げて人生を歩む者は低められ、深い悩みの淵を歩んでいた者は、神の憐れみによって高められる、そういう逆転現象が、神の国の到来によって起こる。今の苦しみが未来永劫続くことはない。憐み深い神さまは必ずあなたを引き上げてくださる。そうイエス様は言われるのです。